小さくてキラリと輝くまちづくり

豊山町第４次総合計画
平成22（2010）～31（2019）年度

ダイジェスト版

1 計画策定の趣旨
第４次総合計画がはじまります

小さくてキラリと輝くまちづくりを目指して

本町では、これまで第３次総合計画に基づき、「住民とともに創造する活力ある都市」の実現に向けて、まちづくりを推進してきました。平成１７年の名古屋空港の空港機能変更後は、旧空港跡地に大型商業施設や宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）の研究開発施設の誘致などを行い、それまでの空港に依存する町から、空港を活用する町へと歩みを進めてまいりました。

しかしながら、地域主権型社会の確立が叫ばれる今、これまでのまちづくりに満足することなく、自己決定と自己責任のもと、さらなるステップアップが必要です。

そのためには、本町の特徴や魅力である、地域の密接なつながりや空港・北部市場を中心とした産業の集積、そして緑豊かな生活空間など、地域特性を十二分に活かしたまちづくりを進めていかなければなりません。また、少子高齢化や国際化の進展、格差社会の是正や深刻化する環境問題など、大きく変化する社会環境にも的確に対応していくことが必要です。

豊山町第４次総合計画は、今後１０年間のまちづくり指針です。策定にあたっては、足元だけにとらわれず、しっかりと夢を持ちながら進めるように、３０年先の本町の展望を描きました。また、計画を着実かつ町全体で推進するために、目標指標を設定するとともに、対話と協働によるまちづくりの考え方を明確に打ち出しました。

まちづくりの主役は、町民一人ひとりです。今後とも、町民・地域団体・企業・大学・行政のパートナーシップのもと、「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」の実現に向けて努めてまいります。引続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、この計画の策定にあたり、ご提言をいただきました総合計画審議会委員の皆様をはじめ、ご意見、ご協力をいただきました町民の皆様ならびに関係各位に心から感謝申し上げます。

平成２２年３月

豊山町長　鈴木新省

第４次総合計画の策定方針

豊山町第４次総合計画は、策定の過程はもとより策定後も将来にわたって住民と行政が共有すべき“まちづくりの指針”となるものであり、次の６つの視点で策定しています。

- 住民との協働による計画づくり
- わかりやすい計画づくり
- 地域特性の反映
- 実効性の確保
- 進行管理と評価システムの構築
- 各種個別計画との関連

2 計画の構成と期間
10年後のビジョンを描きます

豊山町第４次総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画で構成し、それぞれの性格や計画期間は次のとおりとします。

基本構想

基本構想は、長期的な展望を踏まえ、将来像とまちづくりの理念を示すとともに、町政経営の基本的な方針や政策の基本方向を定めます。

計画期間は、平成22年度（2010年度）を初年度とし、目標年次を平成31年度（2019年度）とする10年間の期間を設定しました。

基本計画

基本計画は、基本構想に描かれた将来像とまちづくりの理念を実現するために、施策の大綱に基づき、必要な施策を体系的に定めます。施策内容については、町が推進する施策のみならず、各種団体・住民と協力し合う施策や、国や県などへの要望も位置づけています。

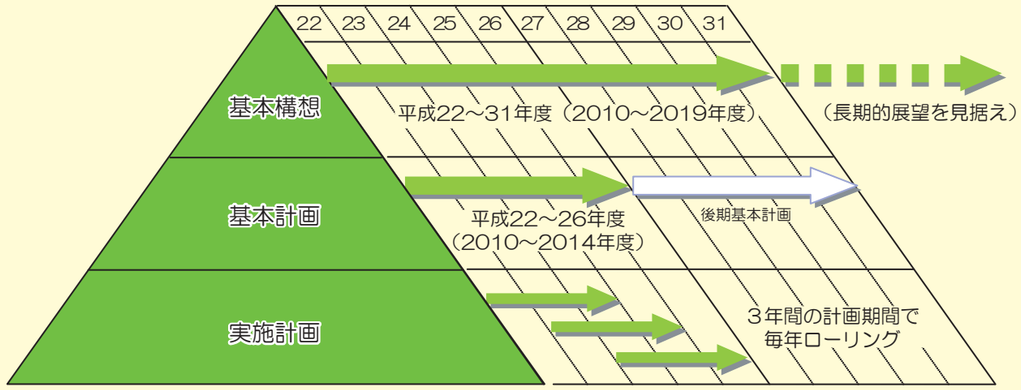
計画期間は、平成22年度（2010年度）から平成26年度（2014年度）の５年間です。

なお、平成27年度（2015年度）から平成31年度（2019年度）の後期計画は、平成25年度（2013年度）から平成26年度（2014年度）に前期計画を見直し、策定します。

実施計画

実施計画は、毎年度の予算編成の指針として、基本計画に定めた施策について、財政的な裏付けを持って向こう３年間で計画的に実施する具体的な事業の内容を定めています。

計画期間は３年間とし、毎年、順次策定をしていくローリング方式で策定します。



3 まちづくりの基本理念と将来像

“にぎわい”と“やすらぎ”をあわせもつ「アーバンビレッジ」を目指します

まちづくりの基本理念

小さくてキラリと輝くまちづくり

本町は、県内で最も面積が小さな自治体です。財政規模もけっして大きくありません。

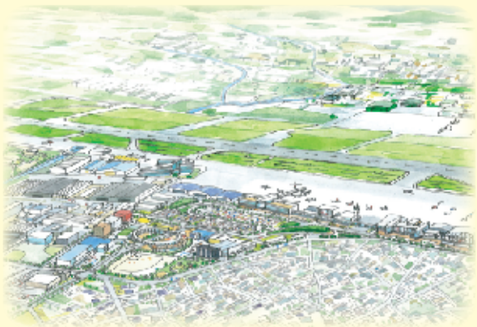
しかし、この小さな町の中には、名古屋市に近接しながらも農地などの緑に恵まれ、住宅地や生活関連施設などがコンパクトにまとまった豊かな生活空間が広がっています。また、地域の行事や活動などを通じて、住民同士、住民と行政がお互いに顔の見える関係をつくりやすく、地域の密接なつながりも育まれています。

そして、何よりも他都市にはない、県営名古屋空港や名古屋市中央卸売市場北部市場など拠点施設が立地し、航空機産業などこれら施設に関連した特徴的で魅力ある産業が形成・集積されています。

“小さい町”の特徴や利点を活かしながら、豊山町ならではの魅力・特徴にさらなる磨きをかけ、住民と行政、住民と住民、それぞれが交流、協働することによって、誰にとっても住んでいることが心地よく感じられ、住民一人ひとりが輝いていられるまちづくりを進めていく必要があります。

こうしたまちづくりを実現していくために、住民が“誇り”を持てる町、“豊かさ”を実感できる町、小さいからこそキラリと光ることのできる『小さくてキラリと輝く町』を築き上げていくことをまちづくりの基本理念とします。

今朝も名古屋空港から世界に向けてビジネスジェットが出発しています。最新鋭の国産ジェット機が離陸するその姿は、白鳥が音もなく湖面を飛び立つ姿のようです。空港のまわりには世界有数の航空宇宙産業が集まり、世界中の注目を集めています。



空港の周りには、豊かな緑が広がっています。鳥たちがさえずり、休日にはバードウォッチングをする人たちでにぎわっています。大山川からは魚をおいかける子どもたちの声が聞こえてきます。夜になると蛍が舞い、人々の心を癒します。

古くから伝わる人情と、時代の先端をゆく産業、そして豊かな緑に包まれたやすらぎの生活空間。
この３つが、それぞれにキラリと輝きを放ちながらハーモニーを奏でる、“にぎわい”と“やすらぎ”をもたらすまち、それが、アーバンビレッジ豊山の３０年後の目標です。

まちの将来像

にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ

名古屋市に近接し各種生活関連施設も充実した〝都市の便利さ〟を持ちつつも、大きな空が広がり緑も残る〝おだやかな環境〟も兼ね備えています。

“都市の便利さ”は、住民の豊かな暮らしを支える重要な要素であり、また、“おだやかな環境”は、住民の暮らしに潤いややすらぎをもたらす重要な要素になるものです。

こうした“便利さ”と“おだやかさ”の両面を備えたアーバンビレッジとして、住民一人ひとりがそれぞれの暮らしやニーズにあった、落ち着いた楽しい生活を実現できる、“にぎわい”と“やすらぎ”を実感できるまちを目指します。

町には、大小さまざまな路線バスが走っています。すべて、環境に優しいエコカーです。どこでも乗れて、どこでも降りられるとても便利なバスは、名古屋市をはじめ近隣の市町まで往復し、自家用車も必要ありません。そのせいか、空気も他の町よりもずいぶんきれいです。

小さな子どもから、お年寄りまで、誰でも好きなときに安全に外出できます。歩車道もきちんと分離、整備されていて、自転車に乗っている人や町を歩く人の姿もたくさん見かけます。そんな住環境を求め、最近では、近隣の都市から、子育て世代の若い世帯を中心に転入者が増えています。

今日はお祭りでしょうか。古くから伝わる祭りは、地域そろってのイベントです。路地には子どもみこしが練り歩き、楽しげなあいさつの言葉が飛び交います。子どもからお年寄りまで、笑顔と笑顔がつながります。

4 まちづくりの評価指標・土地利用構想
10年後のまちの姿を具体化します

まちづくりの評価指標

基本構想の目標年度である平成31年度（2019年度）の人口・世帯数を想定するとともに、３つのまちづくり重点目標に対応したまちづくり指標を設定します。

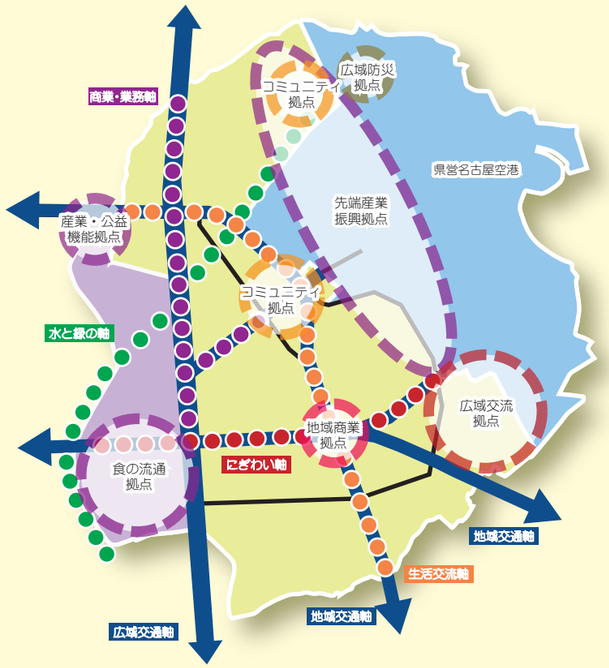
人口・世帯数	人口14,800人、世帯数6,200世帯
まちづくり指標	町政に関心がある住民　３／４（75%）
「人」がキラリと輝くまち	まちづくり活動などへの参加意向がある住民　２／３（67%）
	15歳未満人口の構成割合　12.6%以上
「産業」がキラリと輝くまち	製造品出荷額等　1,200億円以上、商業販売額　4,400億円以上
「生活空間」がキラリと輝くまち	豊山町を住みやすいと評価する住民　９割
	豊山町に今後も住み続けたいと考える住民　３／４（75%）

土地利用構想

土地は、住民生活や経済活動の基盤となるものであり、地域の個性や魅力を生み出す源泉にもなる将来へ引き継ぐべき限られた貴重な資源です。

まちの将来像を実現するために、これまでの土地利用を基本としながら、次の視点に留意し適正な土地利用を進めます。

- ３層構造の土地利用を基本とした、限られた土地の有効活用
- 空港の立地や機能を最大限に活かした土地利用
- 都市と自然の調和・共存



5 まちづくりの重点戦略
重点的に取り組みます

まちづくりの重点戦略

本町が目指すまちの将来像の実現に向けて、３つのまちづくり重点目標に対応した重点戦略を掲げ、以下の事業について町全体で重点的に取り組んでいきます。

重点戦略１　「人」がキラリと輝くまちづくり

地域の絆や交流のさらなる醸成	★コミュニティ組織育成事業 ★世代間交流事業 ★家族ふれあい事業 ★多文化共生の推進
子育てしやすい環境づくり	★ファミリーサポートセンター事業 ★保育特別対策事業（障がい児保育・乳幼児保育・緊急一時保育、異世代交流等）
空港を活用した交流の促進	★旧空港用地を活用した地域振興 ★空港都市交流事業

重点戦略２　「産業」がキラリと輝くまちづくり

航空宇宙産業をはじめとした産業の強化・育成	★航空宇宙関連産業の育成・誘致 ★北部市場周辺「食の流通拠点」形成事業 ★インター周辺地区の土地利用転換 ★春日井稲沢線沿道の商業集積誘導

重点戦略３　「生活空間」がキラリと輝くまちづくり

コンパクトにまとまった魅力ある定住環境の創造	★まちづくり推進事業 ★下水道整備事業の促進
タウンバスを中心とした公共交通の充実	★とよやまタウンバスの運行・地域公共交通活性化事業 ★歩道整備の優先整備路線の設定
庁内各部門の連携や広域連携の強化	★広域医療圏業務負担事業 ★名古屋空港関連広域行政事業

6 分野別まちづくり計画

各部門で着実に施策を推進します

分野別まちづくり計画

本町が目指すまちの将来像の実現に向けて、基本構想の７つの分野別まちづくり目標に対応した分野別まちづくり計画を掲げ、３４の基本施策について掲げた目指す姿を達成するために、各部門において町民との対話と協働のもとで計画的に施策を推進していきます。

分野別まちづくり目標		基本施策	
目標1	快適で活気あふれるコンパクトなまち	①土地利用	②公園・緑地
		③道路	④上下水道
目標2	にぎわいを生み出す個性豊かなまち	①商工業	②農業
		③観光	④雇用・勤労者福祉
目標3	安全・安心で住みやすさを実感できるまち	①住宅・宅地	②交通機関
		③景観形成	④環境衛生
		⑤消防・防災	⑥防犯・交通安全
目標4	地球にも人にも優しい持続可能なまち	①自然環境	②ごみ対策
		③資源・エネルギー	
目標5	助け合い、支え合う健康であたたかなまち	①健康づくり	②地域福祉
		③子育て支援	④高齢者福祉
		⑤障がい者福祉	⑥社会保障
目標6	いきいきとした豊かな心を持った人を育むまち	①生涯学習	②家庭教育
		③学校教育	④文化財
		⑤芸術・文化	
目標7	住民と行政がともに考え、ともにつくる信頼のまち	①住民協働	②コミュニティ
		③国際化	④行政運営
		⑤財政運営	⑥広域行政

豊山町第４次総合計画　～小さくてキラリと輝くまちづくり～

【発行】　豊山町　平成２２年３月

【編集】　豊山町総務部総務課

〒４８０－０２９２　愛知県西春日井郡豊山町大字豊場字新栄２６０番地
ＴＥＬ ０５６８－２８－０００１(代表)　ＦＡＸ　０５６８－２９－１１７７
E-mail　kikaku@town.toyoyama.lg.jp
ＵＲＬ　http://www.town.toyoyama.lg.jp